

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-287	高等学校	芸術	音楽 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
17 教出	音 I 701	音楽 I Tutti +		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（教育基本法第二条の第1～第5号）」を、学習活動を通して実現できるように編修しました。様々な楽曲や音楽活動を通して、芸術文化についての幅広い知識と教養を身に付けるとともに、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばしながら生徒一人一人の豊かな情操や創造性を培うことを目指すよう配慮しました。また、教材や学習内容の設定において、自他の敬愛と協力を重んずる態度や生命を尊び、自然を大切にすること、平和に寄与する態度を養うこと、ならびに伝統と文化を尊重し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養うことができるよう配慮しました。

幅広い知識・教養を身に付ける

西洋音楽史

古代 人類は太古の時期より、音によるコミュニケーションを行っていたと考えられる。文明が進むにつれ、これが音の芸術、すなわち音楽という形をとるようになっていった。

古代ギリシャの音楽 古代ギリシャでは、音楽は数学や天文学と同じく一種の学問として扱われており、ピタゴラスによる音律の研究をはじめとして、数学的な音楽理論の研究が興隆した。また、円形劇場では合唱と演劇によるギリシャ悲劇が上演され、時にはアロース（曲）やキクラ（歌）などの楽器が用いられたと考えられる。しかし、そこで演奏されたような音が鳴り響いていたのかは不明である。

中世 中世のヨーロッパではキリスト教が大きな力をもち始めたことに伴い、音楽も教会の典礼（キリスト教の儀式）を中心に発展した。また、聖歌を各地に普及させる目的から、音楽を楽譜という形で記録し伝達する方法が構築された。

単旋律聖歌からポリフォニー音楽へ 当時のキリスト教会の典礼において基本となっていたのは、グレゴリオ聖歌と呼ばれる単旋律の聖歌である。これは、ラテン語による祈りの言葉が徐々に旋律の形をとるようになったもので、やがてこれらの聖歌を「聖歌集」として一つの声部に置きながら異なる旋律を加えていくポリフォニー（複数の旋律が独立性を保ちながら進行する多声音楽）が作られる。はじめは、オルガナムと呼ばれる定旋律に完全4度や完全5度の音程で進行する旋律を加えたものだったが、徐々に複雑な多声音楽へと発展していった。

楽譜の誕生と発展 9世紀頃、キリスト教の聖歌を伝達する方法としてネウマという記譜法が用いられるようになった。初期のネウマは絶対的な音高は示されず、テキストに音の高さや旋律の動きを示す記号を付すものだった（こうした形態は、日本では仏教の真言宗による聖歌でもしばしば見られる）。その後、線を用いた譜線ネウマが用いられるようになり、現在の五線記譜法のように線上・線間に置かれた音符で音高を表すようになった。

▲p.108 西洋音楽史

個人の価値を尊重して 能力を伸ばし、創造性を培う

音のスケッチ

テーブル・ミュージックを楽しもう

テーブル・ミュージックは、机でのひらやこふし、指などで打ったり揺ったりして出した音を使って演奏する音楽です。机以外の道具を使って音を出したり、手拍子や足踏みなどを加えて工夫したりしても楽しいですね。皆さんがつくったテーブル・ミュージックを演奏しましょう。

- 四人くらいでグループを作り、それぞれ机の前に座る。曲のタイトルや雰囲気を選んで、イメージを共有しよう。
- どのような音を使うか考えよう。揺らし方を工夫したり、必要な道具を用意したりしよう。

① でのひらで打つ ② 肘で打つ ③ でのひらで揺る ④ 紙を丸める ⑤ 手拍子・足踏み

- [2] で考えた音を使ってリズム・パターンをつくり、曲の構成を考えよう。
- 下の創作例を参考にしながら、音色やリズムの表し方を工夫して自分たちが演奏しやすい楽器にしよう。（創作例は8小節だが、16小節、32小節などの音楽にしてもよい。）
- 音を出しながらイメージを思い展開させて、強弱や速度なども工夫しよう。

創作例

音色の表し方の例
○でのひらで打つ △肘で打つ △でのひらで揺る □紙を丸める ◎手拍子 ♪足踏み

リズムの表し方の例
○ 8分音符 ○ 三連符 ○ 16分音符 ○ 8分休符と8分音符

	1小節目				2小節目				3小節目				4小節目			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
演奏者A	○				○				○				○			
演奏者B		○				○				○				○		
演奏者C			○				○				○				○	
演奏者D				○				○				○				○

	5小節目				6小節目				7小節目				8小節目			
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
演奏者A	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	♪	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ
演奏者B									○	○	○	○	○	○	○	○
演奏者C									○	○	○	○	○	○	○	○
演奏者D									○	○	○	○	○	○	○	○

発表しよう グループごとにテーブルミュージックを発表しよう。ほかのグループの演奏を聴いて、その特徴や演奏についてまよめよう。

グループ名	特徴（自家開発）	感想・よかった点
	<input type="checkbox"/> リズム <input type="checkbox"/> 強弱 <input type="checkbox"/> 速度 <input type="checkbox"/> 拍子 <input type="checkbox"/> 音色 <input type="checkbox"/> 形式、構成 <input type="checkbox"/> テクスチャ <input type="checkbox"/> その他	

▲p.68 音のスケッチ⑥

構成・内容

- 様々な音楽活動を通して、**個人の価値を尊重し、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う**とともに、生徒一人一人の**豊かな情操と創造性を培う**ことができるような構成及び内容としました。
- 様々な鑑賞活動や我が国及び西洋の音楽史を通して、**幅広い知識と教養を身に付ける**とともに、**伝統と文化を尊重**することができるよう配慮しました。

教材の選択

- **個人の価値を尊重し、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養う**とともに、生徒一人一人の**創造性を培う**ことができるよう教材の選択及び設定に配慮しました。
- 日本や他国の多様な音楽文化にふれながら、**我が国と郷土を愛する**とともに、**他国を尊重する態度を養う**ことができるよう教材の選択や資料の設定を行いました。
- 時代や曲種等に偏りなく幅広いジャンルの中から教材を選択し、音楽の多様なよさや美しさを感じ取りながら、**伝統と文化を尊重し、豊かな情操を培う**ことができるよう工夫しました。
- 楽曲に込められた思いやメッセージにふれながら、**生命を尊び、自然を大切に**思う心情や、**平和に寄与する態度を養って**いけることができるよう工夫しました。

2. 対照表

図書の内容・構成と教育基本法第二条の第1号から第5号との対応を示します。

教育基本法第二条

- 〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、
健やかな身体を養うこと。
- 〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、
職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的
に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、
国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

図書の内容・構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Voice	<ul style="list-style-type: none"> • 合唱を通して、生徒一人一人が目的意識をもちながら、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うよう教材の選択と扱いに配慮しました。〈第2号〉 • 合唱を通して、生徒同士が心を通わせ、自他の敬愛と協力を重んじながら、音楽活動を進めるよう選曲や学習内容を設定しました。〈第3号〉 • 自然や四季の美しさ、生命の大切さをテーマとした楽曲を取り上げ、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うよう配慮しました。〈第4号〉 • 各地の民謡や芸能を取り上げ、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うよう配慮しました。〈第5号〉 	<p>p.4～67</p> <p>p.4～67</p> <p>p.18～20, 52～56, 58～59</p> <p>p.46～49</p>
Instruments	<ul style="list-style-type: none"> • 楽器の演奏を通して、生徒一人一人が目的意識をもちながら、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うよう教材の選択と扱いに配慮しました。〈第2号〉 • 楽器の演奏を通して、生徒同士が心を通わせ、自他の敬愛と協力を重んじながら、音楽活動を進められるよう選曲や学習内容を設定しました。〈第3号〉 • 和楽器を実際に演奏し、その響きや奏法を体験しながら、幅広い知識と教養を身に付け、伝統と文化を尊重する態度を養うよう配慮しました。〈第1, 5号〉 	<p>p.69～95</p> <p>p.69～95</p> <p>p.88～95</p>
Appreciation	<ul style="list-style-type: none"> • 様々な時代や地域の多様な音楽にふれ、その特徴やよさを味わいながら、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、他国を尊重する態度を養うよう配慮しました。〈第1, 5号〉 • 世界の様々な音楽について、その個々の特徴を知るとともに、その背景となる文化や歴史にふれながら、他国を尊重する態度を養うよう配慮しました。〈第5号〉 • 我が国に伝わる音楽や芸能の系譜を学ぶとともに、その特徴やよさを味わいながら、幅広い知識と教養を身に付け、伝統と文化を尊重する態度を養うよう配慮しました。〈第1, 5号〉 	<p>p.100～127</p> <p>p.104～107</p> <p>p.100～103</p>

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
Dramas & Music	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が目的意識をもちながら、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うよう教材の選択と扱いに配慮しました。〈第2号〉 合唱を通して、生徒同士が心を通わせ、自他の敬愛と協力を重んじながら、音楽活動を進めるよう選曲や学習内容を設定しました。〈第3号〉 	<p>p.128 ~ 139</p> <p>p.134 ~ 139</p>
音のスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> 様々な創作活動を通して、生徒一人一人が目的意識をもちながら、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培うよう教材の選択と扱いに配慮しました。〈第2号〉 	<p>p.21, 34, 50, 57, 61, 68, 75, 84, 143</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条に示す高等学校教育の目標などを達成するため、以下の点について編修上の工夫をしました。

• カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面

色覚特性を踏まえた、判読しやすい配色や表示の工夫により、すべての生徒が学びやすい紙面づくりに配慮しています。

• 環境にやさしい教科書

教科書の印刷には再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への影響を少なくするよう配慮しています。

• 見やすさに配慮した紙面

判型は「A4」を採用し、楽譜、文字、写真、図表などの見やすさに配慮しています。

• 学びを支えるWEBリンク

当社ウェブサイトを通して、外国語の歌詞の朗読など、学習に役立つコンテンツを利用いただけます。



編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-287	高等学校	芸術	音楽 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	音 I 701	音楽 I Tutti +		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

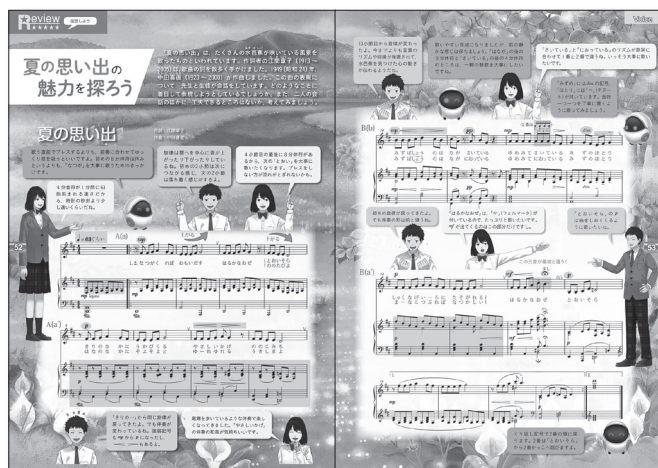
本教科書は、生涯学習を視野に入れながら、生徒一人一人の感性を高め、意欲を喚起するとともに、知識及び技能を習得し、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けながら主体的に学ぶこと、個性を生かした創造的な音楽活動を展開していくことができる構成及び内容としました。

4つのブロックと題材構成

音楽の幅広い活動を通して、音楽やそれを取り巻く文化に幅広く関わる資質・能力を育成することをねらいとし、「Voice」「Instruments」「Appreciation」「Dramas & Music」の各ブロックを置き、それぞれに学習活動を明確化するための題材を設けました。題材は複数の教材から選んで授業を展開できるように構成し、それぞれの教材には生徒が自ら進んで音楽活動を深めることができるよう「ねらい」を設けました。

Voice

歌曲からポピュラー音楽、各地の民謡まで、様々な種類の楽曲を取り上げました。原語による歌唱も体験できるよう配慮しました。



▲p.52 夏の思い出

Instruments

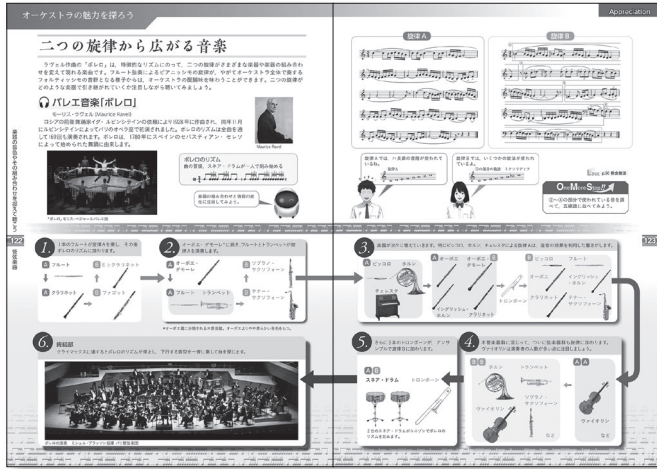
リコーダーやギターの変奏から、和楽器、リズム・アンサンブルなど、様々な形態の器楽曲に取り組めるよう配慮しました。



▲p.70 Start up! Playing the Recorder

Appreciation

題材ごとに設定したテーマをもとに、様々な時代、地域、曲種からバラエティに富んだ楽曲を取り上げました。日本音楽では、雅楽の鑑賞や筆筆の演奏を促す題材を設けました。



▲p.122 ボレロ

Dramas & Music

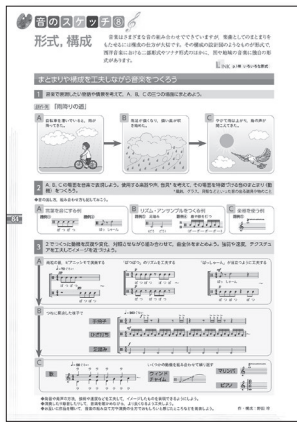
文学、映像などと結びついた作品を紹介し、音楽と他芸術との関わりについて、理解を深めることができるよう配慮しました。



▲p.128 物語と音楽との関わりを注目しよう

「音のスケッチ」

音楽を形づくっている要素とその働きを知覚・感受するとともに、それら进行操作しながら、自己のイメージをもとに指導要領に示された各種の創作活動を行うことができるよう配慮しました。



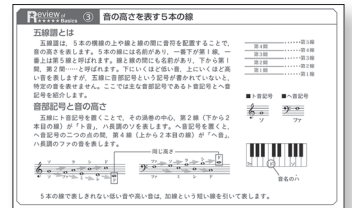
▲p.84 音のスケッチ⑧

「Review」 「Review of Basics」 「One More Step」

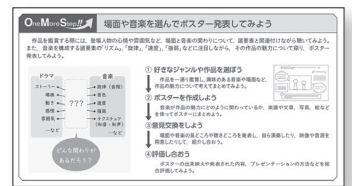
小学校や中学校の既習教材を取り上げ、楽曲や学習事項を振り返るコーナー「Review」や、読譜に関する基礎的な事項を解説する「Review of Basics」、題材や教材で扱った内容をより一歩深めるコーナー「One More Step」を設け、生徒のレディネスに応じた活動を促せるよう配慮しました。



▲p.29 Review



▲p.17 Review of Basics③



▲p.129 One More Step !!

「Start up ! Playing the Recorder」 「Start up ! Playing the Guitar」 p.70, p.76

リコーダーやギターの種類や構造、様々な奏法などを視覚的に示し、器楽の演奏表現に生かせるよう配慮しました。

「和楽器のしらべ」 p.88, p.90, p.92, p.94

箏、三味線、三線、篠笛の基礎的な知識や構造、奏法などを紹介し、初心者でも扱える練習曲を掲載しました。

「コンピュータを活用しよう」 p.85

コンピュータを用いた様々な音楽活動を紹介するとともに、著作権への配慮を促すコラムも設けました。

「ポピュラー音楽のルーツ」 「日本の大衆音楽」 p.140, p.144

北アメリカや日本を例に、様々なポピュラー音楽のジャンルを紹介し、楽譜を参照したり表現教材を歌ったりする活動ができるよう配慮しました。

教材名	該当箇所	A 表現															B 鑑賞							
		(1) 歌唱						(2) 器楽						(3) 創作			ア			イ				
		ア	イ		ウ		ア	イ		ウ		ア	イ	ウ		ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ
			ア	イ	ウ	ア		イ	ウ	ア	イ			ウ										
知識や技能を生かしながら創意工夫	曲想と音楽の構造や背景との関わり	言葉の特性と発声との関わり	様々な歌唱表現の特徴	発声、発音などの技能	調和を意識して歌う技能	表現形態の特徴を生かして歌う技能	知識や技能を生かしながら創意工夫	曲想と音楽の構造や背景との関わり	曲想と音色や奏法との関わり	様々な器楽表現の特徴	奏法、身体の使い方などの技能	調和を意識して演奏する技能	表現形態の特徴を生かして演奏する技能	知識や技能を生かしながら創意工夫	音楽材、響き、音階や音型、構成上の特徴について理解	反復、変化、対照を活用する技能	旋律、副次的旋律、和音などを付ける技能	要素を変化させ変奏や編曲をする技能	曲や演奏に対する評価とその根拠	音楽の意味や価値	音楽表現の共通性や固有性	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり	音楽の特徴と背景、他芸術との関わり	我が国や郷土の音楽の種類と特徴
Sur le pont d'Avignon/ Les Champs-Élysées	p.40～41	○	○	○	○	○	○																	
「東欧・ロシア 歌の旅」	p.42～43	○	○	○			○																	
茉莉花(まつりか)	p.44	○	○	○	○	○	○																	
アリラン	p.45	○	○	○	○	○	○																	
ソーラン節/会津磐梯山	p.48～49	○	○	○	○	○	○																	
音のスケッチ ③	p.50～51													○	○	○	○	○						
Scarborough Fair/Canticle	p.50	○	○		○		○																	
夏の思い出(独・斉)	p.52～53	○	○	○	○	○	○																	
夏の思い出(同三)/赤とんぼ	p.54～56	○	○	○	○	○	○																	
音のスケッチ ④	p.57													○	○	○	○	○						
南海譜/Finlandia-hymni	p.58～60	○	○	○	○	○	○																	
音のスケッチ ⑤	p.61													○	○	○	○	○						
ぜんぶ/An die Freude	p.62～63	○	○	○	○	○	○																	
サザエさん一家/ 切手のないおくりもの	p.64～65	○	○	○	○	○	○																	
Oh happy day/ Happy birthday to you	p.66～67	○	○	○	○	○	○																	
音のスケッチ ⑥	p.68							○	○	○	○	○	○	○	○	○								
Wind from the south	p.69							○	○	○	○	○	○											
ベツォールトのメヌエット/ いつも何度でも/Jupiter	p.71～73							○	○	○	○	○	○											
「カノン集」	p.74～75							○	○	○	○	○	○											
音のスケッチ ⑦	p.75													○										
翼をください	p.78	○	○				○	○	○	○	○	○	○											
カノンによるギター・エチュード/ ソナタK.331によるギター二重奏/ 茶色の小びん/Greensleeves	p.79～81							○	○	○	○	○	○											
「第三の男」のテーマ/ L'inverno 「冬」から	p.82～83							○	○	○	○	○	○											
音のスケッチ ⑧	p.84													○	○	○	○							
STAR WARS Main title	p.86							○	○	○	○	○	○											
Yellow submarine	p.87	○	○				○	○	○	○	○	○	○											
「和楽器のしらべ」	p.88～95							○	○	○	○	○	○											

